

◇ 式 辞 ◇

濯ぎ始めた東風と明るさを増す陽ざしに、此処月寒丘にも春の訪れを感じる本日、平成22年度北海道札幌月寒高等学校第59回卒業証書授与式を、このように盛大に挙行できますことは、卒業生はもとより本校職員にとりまして、この上ない喜びとするところであります。

日頃より、本校教育推進にご理解とご支援をいただいております、ご来賓の皆様には、年度末のお忙しいところご臨席を賜り、厚くお礼申し上げます。また、陰に陽にお子様を育み支えてこられました保護者の皆様には敬意を表し、栄えあるご卒業を心からお喜び申し上げますとともに、本校教育推進にご協力賜りましたことに改めて感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました全日制課程312名の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは晴れて高等学校卒業の榮譽を手にして、入学以来これまで学業に勤しみ、友情を育んできた日々を振り返り、まさに万感胸に迫るものがあるのではないかと思います。

さて、昨年度の本校創立60周年記念式典において皆さんは、世界的なフルート奏者工藤重典様の名演奏を聴き、直木賞作家佐々木譲様の作品に触れるなど、二万三千名を超える月高同窓生が道内はもとより国内外、各界で大いに活躍されていることを知り、改めて我が母校を誇りに思ったことでしょう。名実ともに屈指の伝統校となった本校で皆さんは、「自主自立」「親和協力」の校訓を念頭におき、「高い次元での文武両道」の教育実践に積極的に参加し、学校の氣勢を一層高めてくれました。難解な授業や進学講習・模擬試験などの勉強だけでなく、全道・全国への進出も見られた部活動や、クラスの絆を強めた伝統の月高祭などの生徒会活動をとおして培われた「月高生の人間力」は、これからの人生を逞しく生き抜いていくための推進力になるものと確信します。

卒業式はまた、将来へ希望に胸膨らませ、決意も新たにスタートを切る大事な時でもあります。その皆さんを待ち受ける社会に目を向けてみますと、世界的な環境破壊や食糧危機、景気低迷などの厳しい現実が、私たちの日々の生活に重くのしかかっています。その閉塞感から抜け出す鍵は、次代を担う若者の努力、すなわち皆さん一人ひとりの力に負うところ大であります。私は、皆さんが社会の厳しい現実に真正面から対峙して、持てる力を精一杯発揮し、新たな時代を切り拓く先駆者となっていくことを期待し、餞の言葉を贈ります。

それは「確たる信条をもつ」ということです。信条、すなわち“判断や行動の指針として堅く信じるもの”について、あの京セラの名誉会長で日本航空の再建に取り組んでいる稲盛和夫氏は、自らの人生を振り返る著書の中で、「閉塞感が漂うこの時代に、人生の指針となるのは“ど真剣に生きる”ということである。」「一度きりの人生を真摯な姿勢で“ど”がつくほど真剣に生きてみる。その継続が私の人生を好転させた。」と述べています。

また、先程ノーベル化学賞を受賞した北大名誉教授鈴木章先生が、「精進努力」を座右の銘とし、日ごろの真面目でひたむきな姿勢がセレンディピティ serendipity(偶然の発見)に繋がると話していたのは記憶に新しいところです。お二人の「真摯な態度で、ど真剣に生きる」との信条には、私も強く共鳴しています。

卒業する皆さんにとって大切なことは、新たな進路先において夢中になれることを見つけ出し、それに対して真剣に打ち込むということです。それを自分の果たすべき使命と受けとめて、誠実かつ真摯に立ち向かったとき、他を圧倒する力が身に付き、本物を手にすることが出来るようになるものです。真剣に生きるなど「確たる信条をもつ」ことこそが、今日垂れ込める閉塞感を打ち破る力になると考えます。

それでは、希望を胸に、今日を限りに月高の学舎を巣立ちゆく皆さんが、関係の方々への感謝と本校卒業生としての自覚をもち、新しい人生を颯爽と力強く歩んでいくことを祈念して、式辞とします。